

令和6年度 普及活動成果集

「発信！発進！発心！」元気な担い手 産地の魅力



福岡県北筑前普及指導センター

令和7年3月

はじめに

北筑前普及指導センターでは、地域の農業振興・農村の活性化を図るため、農業経営体の皆様の経営力強化や、今後益々厳しくなると考えられる担い手の確保に向けて新規就農者などの育成に取り組むため、令和4年3月に策定した「福岡県農林水産振興基本計画」の5つの施策の振興方向に基づき、12の課題を設定し、「発信！発進！発心！元気な担い手産地の魅力」をスローガンに掲げ普及指導活動を展開しています。

令和6年度の活動において、特徴ある活動のご紹介を致します。一つ目は2年目となる「むなかた地域における新規就農者の経営確立と持続可能な生産の維持」です。新規就農者の経営確立は、最重要課題であり、きめ細かなサポートを必要とします。このため、関係機関で構成するむなかた農業支援会議に参画し、関係機関との情報共有を図ることにより、総合的な支援を行いました。特に就農希望の多い「あまおう」栽培者に対しては、匠の技伝承事業等を活用することで、早期の技術確立に向けて取り組みました。

また、持続可能な生産の維持のためには、土づくりが必要であり、継続的な有機物施用が必要です。このため、管内の堆肥供給者と堆肥利用農家のマッチングのための堆肥利用・供給体制の構築を進めるとともに、水稻・麦・大豆や、キャベツ・カリフラワー・ブロッコリーなどの露地園芸作物の堆肥を活用した施肥体系の確立を推進しています。

二つ目は、4年目となる「古賀市の農業振興と担い手の育成確保」です。地域において新規就農に対する支援は必要不可欠なものであり、古賀市、JA、普及指導センターで構成する農業者支援会議において、農家が就農前の新規就農者をサポートする新規就農アドバイザーや就農体験を受け入れる農家の新規選定を行いました。併せて、新規就農者の早期の技術確立を目指して、栽培技術を指導するトレーナー農家を継続して選定するとともに講習会や検討会などに取り組んでいます。また、農地整備事業実施予定である薦野清滝地区において、担い手としての集落営農法人の設立に向け、関係機関と連携しながら、園芸品目の検討も含めた支援を行っています。

この他、水田農業の基幹品目である麦は、小麦の「チクゴイズミ」のタンパク含有率向上や、かんきつの優良品種である「早味かん」「北原早生」の高温による日焼け対策の取り組みなど着実に取り組みが成果を上げつつあります。

地域の農業を巡る情勢は、様々な資材高騰や、温暖化による栽培の難しさなど厳しさを増していますが、そういった状況の中、現場の農業者及び関係機関としっかりと連携し現地課題の解決に向けて取り組んだ主な成果として取りまとめたのが本誌です。

多くの皆様方にご一読頂き、この成果が少しでもご自身の経営の維持・発展に繋がれば幸いです。

令和7年3月

福岡農林事務所北筑前普及指導センター
センター長 友田 正英

目次

1 普及活動の成果

(1)	むなかた地域における新規就農者の経営確立と持続可能な生産の維持	1
(2)	古賀市の農業振興と担い手の育成確保	3
(3)	地域農業を支える女性農業者の育成	5
(4)	水田農業の担い手育成および経営力強化	6
(5)	イチゴの収量向上と新規生産者の早期技術習得	7
(6)	優良品種「早味かん」「北原早生」の安定生産 および若手・女性生産者の経営力強化	8
(7)	品目情報蓄積システムの構築とユーカリの安定出荷体制確立	9

2 トピックス(注目の活動・技術および管内の各種表彰農家紹介)

(1)	女性農業者対象の農業機械研修会を開催	10
(2)	福岡県指導農業士研修交流会を開催	10
(3)	水稻の高温障害について勉強会を実施	11
(4)	水稻のイネカメムシ防除の徹底	11
(5)	「あまおうの匠」事業 匠情報交換を実施	12
(6)	露地ナス実態調査を実施	12
(7)	柑橘部会女性部対象の経営勉強会を実施	13
(8)	新たな切り枝品目「ポポラスベリー」の出荷が増加	13
(9)	福岡県農林水産まつり農林水産賞名誉賞(麻生正雄氏)	14
(10)	福岡県花き品評会「技術・ほ場の部(トルコギキョウ)」県知事賞(中津留大氏)	14

3 参考資料

(1)	令和6年度 主な展示ほの概要	15
(2)	令和6年度 普及指導センター活動情報一覧	16
(3)	令和6年の生育状況	18
(4)	令和6年の気象状況	21
(5)	普及指導センターの所内体制	22

むなかた地域における新規就農者の 経営確立と持続可能な生産の維持

実施期間：令和5年度～令和7年度

むなかた地域の産地維持のためには、新規就農者の経営が早期に確立するよう継続的な支援が重要となっています。そのため、関係機関と情報共有を図り、新規就農者に対する重点的な巡回指導などの支援を実施しました。

また、むなかた地域の堆肥利用を推進するため、実証ほを設置し、関係機関と利用供給体制について検討を行いました。

対象の概況

新規就農者（就農5年目までの就農計画作成者）	13戸
土地利用型農家	
認定農業者のうち、土地利用型作物作付け者	107戸
認定農業者以外の露地野菜農家	16戸

活動の内容

(1)新規就農者の経営確立

・新規就農者のつどい	1回
・むなかた農業支援会議	4回
・サポート体制による会議	1回
・営農基礎講座	4回
・新規就農者への定期個別巡回	平均6回/戸
・サポート体制による巡回	2回/戸
・「あまおう」及び果樹の匠との研修会	3回
・「あまおう」重点個別巡回	平均6回/戸



果樹の匠 アイカメラによる撮影



(2)持続可能な生産の維持

・堆肥利用・供給体制の検討	1回
・実証ほの設置	6品目
・堆肥等利用検討会	3回
・堆肥供給者への個別巡回	8回
・施肥基準作成会議	2回



匠の動画による研修会

(1)新規就農者の経営確立

- ・就農5年目までの新規就農者の就農計画は、13名中11名(約85%)が目標を達成しました。
- ・「あまおう」の基準収量(3,900kg/10a)を新たに1名が達成し、達成者が累計で4名となりました。
- ・新規就農者が多いイチゴは、プロジェクト班員で重点個別巡回を行いながら経営確立に向けて支援を実施しました。



「あまおう」重点個別巡回

(2)持続可能な生産の維持

- ・堆肥利用・供給体制について、関係機関で検討。宗像市と福津市の補助事業の活用や供給側との連携、堆肥活用の技術支援等により堆肥利用・供給体制を整備し、運用しました。
- ・堆肥利用農家数は45戸で、前年より6戸増加しました。
- ・水稻・麦・大豆・露地野菜(ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ)で堆肥利用の実証ほを設置し、その結果をもとに堆肥等を活用した施肥基準を水稻・麦・大豆の3品目で作成しました。



堆肥散布風景



堆肥利用実証ほ（カリフラワー）

今後の取り組み

新規就農者への個別巡回を継続し、早期に経営が安定するよう継続的な支援を行います。

また、堆肥の利用・供給体制については、堆肥供給側の意向も聞きながら、構築に向けて検討を継続します。

露地野菜の堆肥実証ほ結果をもとに、露地野菜3品目の堆肥等を活用した施肥基準作成に向けて取り組みます。

実施期間：令和3年度～令和6年度

市、JA、普及指導センターで組織する古賀市農業者支援会議において、就農希望者に対し就農への心構え等を指導する「新規就農アドバイザー」や、就農希望者の営農イメージが不明確な場合に就農体験を実施する「就農体験受入農家」、古賀市およびJAの推奨品目であるイチゴ、ナス、スイートコーンの栽培技術を指導する「トレーナー農家」を選定し、就農相談・研修・就農・定着までを関係機関で円滑に支援する仕組みとして「古賀市担い手育成支援制度」を構築しました。また、新規就農者から作付希望が多いナス、スイートコーンについては、栽培講習会や現地検討会、技術展示ほ設置により栽培技術の習得を支援しました。

さらに、集落営農法人の持続的運営のため、古賀市内の集落営農法人を対象に営農ビジョンの策定を支援するとともに、新規法人設立予定地区に対して、法人化勉強会や高収益作目導入の支援を実施しました。

対象の概況

古賀市認定農業者	39経営体
JA粕屋各部会員（イチゴ、かんきつ、軟弱野菜）	57名
園芸品目栽培農家（ふくれんVFステーション出荷農家）	33名
集落営農法人	2組織
薦野清滝基盤整備推進協議会	1組織
就農希望者、新規就農者	11名

活動の内容

(1)担い手育成支援制度の構築

・農業者支援会議	10回
・就農体験受入スケジュール作成	作成
・就農体験実施	10名
・就農状況報告会	2回/経営体



営農基礎講座

(2)多様な担い手の育成

・スイートコーン生産販売拡大支援	7回
・研修受入意向調査（ブロッコリー）	1回
・技術展示ほ	1か所
・栽培技術講習会（ナス）	2回
・営農基礎講座	4回



就農状況報告会（ほ場巡回）

(3)集落営農法人の育成

・営農ビジョン策定会議	1回
・基盤整備後導入品目の検討	1回

成 果

(1)担い手育成支援制度の構築

- ・新規就農アドバイザーおよび就農体験受入農家を新たに1名選定しました。
また、計画期間を通して担い手支援制度を構築し、アドバイザー4名および就農体験受入農家5名を選定することができました。

(2)多様な担い手の育成

- ・新規就農者を3名育成し、ブロッコリーのトレーナー農家を1名選定しました。
また、計画期間を通して新規就農者10名を育成、トレーナー農家4名を選定することができました。

(3)集落営農法人の育成

- ・計画期間を通して営農ビジョンを2法人で策定できました。



トレーナー農家に関する説明会



トレーナー農家との打ち合わせ



営農ビジョン作成支援



法人化勉強会

今後の取り組み

担い手育成支援制度を運用しながら改善点を洗い出し、より良い制度となるように関係機関と協議していきます。また、就農相談や栽培講習会、営農基礎講座等を継続し、新規就農者の確保及び育成に努めます。さらに、新規法人設立予定地区について、法人化支援や法人化後の営農ビジョン作成支援を実施していきます。

地域農業を支える女性農業者の育成

実施期間：令和4年度～令和6年度

地域農業の振興や農村の活性化に女性農業者の能力を活かすため、女性農村アドバイザーや女性農業者組織の研修会および交流会等の活動を支援しました。また、このような活動に参加したことがない女性農業者に参加を呼び掛け、女性農業者の経営参画を推進しました。

対象の概況

女性農村アドバイザー	8名
北筑前女性農村アドバイザー協議会	30名
北筑前地区農村女性グループ連絡研究会	21名
KOGAあぐり〜ん役員	5名
ほほえみグループ世話人会	8名
菜の花会	45名
就農10年未満の女性農業者	18名
上記以外の女性農業者	10名

成果

(1)女性農業者の活動支援

- ・女性農村アドバイザーや女性農業者組織の資質向上研修(研修会・交流会)を支援しました。
- ・資質向上研修に複数回参加した女性農業者数
R3:29名→R6:42名

(2)女性農業者の経営参画促進

- ・女性農業者を対象とする経営改善検討会や認定2年以内の女性農村アドバイザーの新人研修会等を実施し、経営参画を推進しました。
- ・女性認定農業者数
R3:17名→R6:22名



アドバイザー新人研修

活動の内容

(1)女性農業者の活動支援

資質向上研修の実施等	12回
女性農村アドバイザー研修	
女性組織研修	
女性農村アドバイザー協議会研修	
キャリアアップ講座	
女性起業支援研修会	
農業機械研修会 など	

(2)女性農業者の経営参画推進

経営改善計画検討会(個別、集合)	5回
アドバイザー新人研修、営農基礎講座	5回



資質向上研修会

今後の取り組み

女性農業者組織等の活動を継続して支援し、経営参画する女性農業者を育成していきます。

水田農業の担い手育成および経営力強化

実施期間：令和6年度～令和8年度

管内の土地利用型の主要な担い手である集落営農組織の高齢化や後継者不足などの課題解決のために、将来ビジョンの策定や法人化を支援しました。

若手の個別経営体については、経営改善に向け、コンサルティングを実施しました。

経営の基幹品目である麦や大豆および新規需要米は、収量・品質の向上を目指し、基本管理の徹底を指導しました。小麦はタンパク含有率の向上、大豆は乾燥害対策、新規需要米は有望品種の現地適応性について重点的に支援しました。

対象の概況

集落営農法人(法人化予定含む)	12経営体
若手個別経営体	10経営体
小麦生産者	72経営体
JAむなかた大豆部会	50経営体
飼料用米(ミズホチカラ)生産者	55経営体

活動の内容

(1)担い手の育成

・組織将来ビジョン策定支援	1組織
・個別経営体経営改善支援	4経営体
・スマート農業活用支援	4回
・省力・低コスト化技術実証ほ	2経営体

(2)経営力の強化

(小麦)	
・現地検討会	2地区
・栽培管理情報提供	5回
・展示ほ設置	4か所

(大豆)	
・栽培講習会	4地区
・低収農家への個別指導	1回
・展示ほ設置	3か所
・栽培管理情報の提供	4回

(新規需要米)	
・現地検討会	3地区
・展示ほ設置	2か所
・栽培管理情報の提供	3回

成 果

(1)担い手の育成

- ・将来ビジョン策定経営体数
(R5:6経営体→R6:7経営体)
集落営農法人および法人化見込みの組織に対し、現状の課題を整理し、今後の経営計画の策定を支援しました。
- ・個別経営改善経営体数
(R5:5経営体→R6:9経営体)
生産者の栽培技術に関する課題に対し、実証試験や視察研修等により支援を行いました。

(2)経営力の強化

- ・チクゴイズミタンパク含有率(8.0%)達成割合
(R5:83%→R6:91%)
小麦は、現地検討や管理情報提供によりタンパク含有率向上への意識を高め、肥培管理の徹底を図りました。
- ・大豆は、出芽後の乾燥害対策や雑草・病虫害防除の徹底を促しました。
- ・新規需要米は、害虫(主にイネカメムシ)対策を徹底するとともに、有望品種の実証試験に取り組みました。

今後の取り組み

集落営農法人および個別経営体について経営改善支援を継続するとともに、麦、大豆、新規需要米の収量・品質向上を支援します。

イチゴの収量向上と新規生産者の早期技術習得

実施期間：令和5年度～令和7年度

イチゴ新規生産者の低収量の要因として、「年内管理期」と「親株期」の適期栽培管理が課題となっていました。そこで、講習会や栽培管理のポイントとなる時期の現地巡回を行い、適期栽培管理の徹底を行ったことにより、2名の生産者が10%の増収を達成しました。

また、病害虫だよりの発行による対象病害虫防除の徹底、先進事例調査（県外視察）の実施による環境制御技術の情報収集により、栽培技術の向上を図ることができました。

対象の概況

- | | |
|------------------------------------|-----|
| JAむなかた苺部会 | 60戸 |
| JA粕屋いちご部会 | 28戸 |
| ・平均収量未達成者 | 13名 |
| ※部会平均収量未達成者（過去5年間）。 | |
| 但し、5年未満は除く。 | |
| ・要支援新規生産者 | 11名 |
| ※各部会平均収量未達成者（過去5年間）のうち、就農5年未満の生産者。 | |

活動の内容

- | | |
|------------------|-----|
| (1)収量向上 | |
| ・講習会・現地検討会 | 各5回 |
| ・時期別現地巡回 | 各5回 |
| ・残留基準値一覧表の作成 | 1回 |
| ・病害虫発生状況調査 | 4回 |
| ・病害虫だよりの発行 | 4回 |
| (2)早期技術習得 | |
| ・新規生産者勉強会 | 2回 |
| ・現地互評会 | 各2回 |
| ・先進事例調査 | 各1回 |
| ・ICT機器研修会（匠事業） | 各2回 |

成果

- (1)収量向上**
- ・10%増収者数：2名
 - ※平均収量未達成者対象
- (2)早期技術習得**
- ・部会平均収量達成者数：1名
 - ※要支援新規生産者対象



先進事例調査（長崎県壱岐市）

今後の取り組み

収量向上に向けて「6月末までの切り離し」、「炭疽病罹病可能性株の除去及び適期防除」、「秋ランナー、ウイルスフリー苗等の活用による親株からの炭疽病感染予防」を徹底します。

早期技術習得は収量向上の取り組みに加えて、JAとの定期巡回（月1回）の実施により、適期作業を呼び掛けます。

優良品種「早味かん」「北原早生」の安定生産 および若手・女性生産者の経営力強化

実施期間：令和6年度～令和8年度

宗像・粕屋地域では、「早味かん」「北原早生」を中心とした優良品種の作付推進に取り組んでいますが、近年の温暖化の影響により、日焼け果等の生理障害の多発が問題となっています。また、生産者の減少対策として、若手・女性生産者の経営参画を促進する必要があります。

そこで、安定生産に重点をおいた技術支援を行うとともに、若手・女性生産者を対象とした経営計画策定支援に取り組みました。

対象の概況

JAむなかた柑橘部会

部会員数 38名(うち女性部7名)

栽培面積 14ha

JA粕屋柑橘部会

部会員数 56名(うち青年部17名)

栽培面積 51ha

活動の内容

(1) 「早味かん」「北原早生」の安定生産

- ・管理互評会・反省会 8回
- ・果実品質調査 10回
- ・展示ほ設置(日焼け果対策) 2ヶ所
- ・適期管理栽培情報の発信 12回
- ・スマート農業研修会 2回
(気象観測装置・アイカメラ)

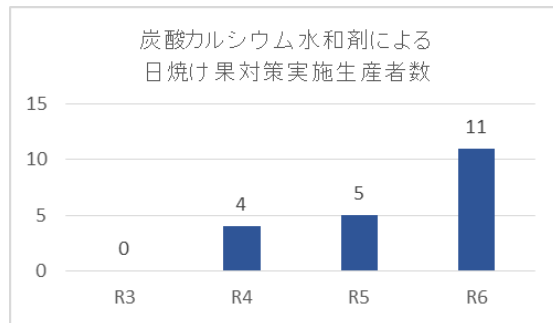
(2) 若手(粕屋)・女性(むなかた)生産者の 経営力強化

- ・女性向け基礎講座の開催 3回
(摘果・せん定・経営)
- ・経営計画の策定支援 2回

成 果

(1) 「早味かん」「北原早生」の安定生産

- ・炭酸カルシウム水和剤による日焼け果
対策実施生産者数 R5:5名→R6:11名



・ブランド合格率

「早味かん」 R5:69%→R6:78%

「北原早生」 R5:52%→R6:66%

(2) 若手(粕屋)・女性(むなかた)生産者の 経営力強化

- ・経営計画策定農家数:1戸(粕屋)
- ・経営計画策定に向けた準備実施農家数
:6戸(むなかた)

今後の取り組み

優良品種の安定生産に向け、気象変動に対応した技術の確立・普及を図るとともに、隔年結果是正に向けた展示ほの設置、個別重点指導を行います。

また、経営勉強会の開催や経営計画策定後のフォローアップにより、若手・女性生産者の経営改善に取り組みます。



日焼け果対策
展示ほ



経営計画の策定支援

品目情報蓄積システムの構築とユーカリの安定出荷体制確立

実施期間：令和4年度～令和6年度

情勢変化の激しい花き業界に対応する産地づくりに向けて、現地で試験導入された5品目(令和4～6年)の栽培・販売情報を収集、客観的に評価し、共有する仕組みづくりに取り組みました。

また、ユーカリの安定出荷体制確立に向けて、実需者との意見交換等を行い、剪定や補植・改植についてのマニュアル作成を行いました。

対象の概況

管内花き生産者	
花き生産者	60戸
JAむなかた花き部会	
ユーカリ生産者	10名
新規生産者	4名

活動の内容

(1) 品目情報蓄積システムの構築

・蓄積品目検討	2回
・栽培情報調査	2回
・販売情報調査	各品目1回
・品目評価・検討会議	1回



品目情報の評価資料

(2) ユーカリの生産性向上

・剪定マニュアルの作成	作成
・補植・改植マニュアルの作成	作成
・補植・改植個別支援	2回
・現地検討会	1回
・実需者との意見交換	1回



ユーカリ現地検討会

成果

(1) 品目情報蓄積システムの構築

・品目評価・検討 5品目



(2) ユーカリの生産性向上

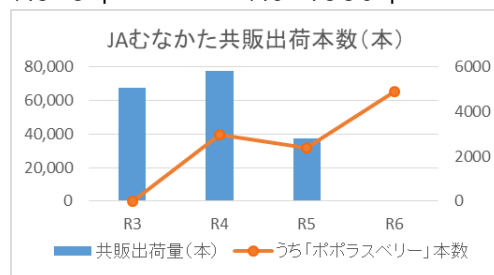
・共販出荷本数

R3:68千本 ⇒ R6:21千本

(生産者の状況変化や酷暑・長雨の影響)

・うち高単価である蓄付枝「ポポラスベリー」

R3:0本 ⇒ R6:4880本



今後の取り組み

管内花き農家へ、収集した情報を適切に提供し、新規品目の導入を支援します。

ユーカリ産地の維持に向けて、栽培者の意向が強い「ポポラスベリー」の栽培技術支援、枯れ防止のための排水対策、新規栽培者確保に取り組みます。

2 トピックス(注目の活動・技術および管内の各種表彰農家紹介)

No.1

女性農業者対象の農業機械研修会を開催

地域振興課 地域係

宗像市にて、指導農業士OBの本田辰幸氏(栽培品目:米・麦・大豆・イチゴ)を講師に招いた女性農業者対象の農業機械研修会を開催し、露地野菜等を生産する農業者10名が参加しました。

研修会では本田氏より、トラクターのメンテナンスや安全な使用方法などについて、パーツを確認しながら説明を受けました。また、効率的な耕うんや平らな畝作りの方法についての説明を聞いた後、実際にトラクターで作業する様子を見学しました。さらに、本田氏が自作したマルチがけやハウスビニール張りのための便利グッズの紹介もありました。

参加者は写真や動画を撮りながら熱心に説明を聞き、「自分のトラクターの状態を確認して、長く使えるようにしたい。」「便利グッズの写真を家族に共有し、自分たちでも作れるか検討したい。」などの感想が聞かれ、女性農業者の経営力向上につながる研修となりました。



トラクターの説明を聞く様子



便利グッズの説明を聞く様子

No.2

福岡県指導農業士研修交流会を開催

地域振興課 地域係

令和7年1月14日に、吉塚合同庁舎で「福岡県指導農業士研修交流会」が開催され、指導農業士、県関係者、来賓を含め総勢83名が出席する盛大な会となりました。

今回の研修交流会は、福岡、北筑前普及指導センター管内の指導農業士15名で実行委員会を立ち上げ企画運営を行いました。

基調講演では、九州大学大学院の広田教授から気象温暖化という生産に大きく影響するテーマについて分かりやすい説明があり、参加者から自分の経営に係る問題について活発な質問がありました。また、現地事例発表では、糸島市の高島拓氏から施設キュウリ、トマトの大規模経営について、福津市の麻生正雄氏から地域農業を継続する取り組みについて発表があり、それぞれの取り組み内容について様々な質問が出され、参加者の関心の高さが伺えました。

さらに、農林水産部との意見交換会では、今回初めての取り組みとして、指導農業士の経営内容別に分科会を行ったことにより、更なる活発な意見交換を行うことが出来ました。

普及指導センターでは、今後も指導農業士会の支援を行っていきます。



宗像市長あいさつ



麻生正雄氏の事例発表

水稲の高温障害について勉強会を実施

地域振興課 水田農業係

令和6年は夏期の高温により水稲の品質が悪化し、特に田植え日が早い品種「夢つくし」で品質低下が目立ちました。そこで、JA職員向けに“水稲の高温障害”についての勉強会を実施しました。

勉強会では、高温障害の発生メカニズムや発生要因について説明し、高温障害を低減できる技術対策を紹介しました。その後は、生産現場の実情や実践可能な対策について参加メンバーで話し合いを行いました。同様の異常気象は今後も続くと予想されるため、普及指導センターは高温障害対策となる品種や技術の現地試験をJAと連携しながら実施し、水稲を中心とした農産物の品質向上に向けて生産支援を行っていきます。



勉強会の様子



高温障害により白くなった玄米

水稲のイネカメムシ防除の徹底

地域振興課 水田農業係

主要な水稲害虫である斑点米カメムシ類は、籾の吸汁により「斑点米」という被害粒の発生をもたらす、品質に大きく影響を及ぼします。特に、イネカメムシは令和5年産から発生が拡大しており、穂が出てすぐに吸汁されると不稔籾となり、減収に繋がります。

令和6年産水稲の作付け時には、イネカメムシ防除の徹底を指導しました。イネカメムシは、出穂期および出穂期後7日の2回防除が基本です。まず、令和6年産稲作暦の説明会等を通じ、イネカメムシの生態や水稲への被害および防除対策について、生産者に対し周知徹底を図りました。作付けが始まると、ほ場を巡回して発生状況を確認するとともに、管理情報の発信や現地講習を行いました。

令和6年産は、暖冬の影響でイネカメムシの発生が多いと予想されたため、早期水稲から注意を呼びかけたことで、生産者の理解促進や防除意識の向上につながり、適期防除の徹底が図られました。今後も、水稲の高品質安定生産に向けて、注意喚起を図っていきます。



イネカメムシ



イネカメムシによる吸汁害

No.5

「あまおうの匠」事業 匠情報交換を実施

園芸課 野菜係

令和6年11月19日に「あまおう」匠の技伝承事業取組の一環の連携強化を目的として、地域間の匠同士による情報交換を試みました。

情報交換会当日は、当管内の匠と田川普及指導センター管内の匠を指導用タブレット端末を用いてつなぎ、最初に各普及指導センターの担当がそれぞれの部会の概要を説明したのち、匠同士の情報交換が開始されました。情報交換は、各産地の本年の栽培状況、産地振興の取組、新規生産者の育成等多岐にわたり、非常に充実したものとなりました。このような取組は、「あまおう」匠の技伝承事業の活性化につながると考えられ、今後も取組の一つとして行っていきます。



匠（北筑前普及指導センター）



匠（田川普及指導センター）

No.6

露地ナス実態調査を実施

園芸課 野菜係

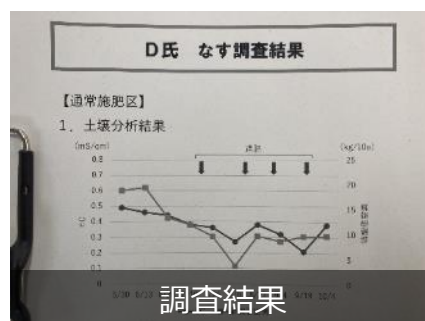
JA粕屋管内では、初期投資が少なく、併せてJA全農ふくれんVF課を利用することで出荷調製作業を省略できることから、露地ナス栽培に取り組む生産者が増えています。しかし、新規就農者等栽培経験の浅い生産者が多く、栽培技術の習得や収量向上が課題となっています。

そこで、初心者にもわかりやすい樹勢チェックシートを活用し、2週間に1度、各ほ場での生育状況を確認するとともに、施肥状況の聞き取りや土壌分析を行いました。調査実施後、樹勢や土壌分析結果に基づいて、追肥のタイミングや灌水頻度といった今後の栽培管理について、生産者にアドバイスすることで、新規就農者等の栽培に関する理解を深めることができました。

普及指導センターでは、今後も露地ナスの栽培技術の向上および収量増加に向けた支援を行っていきます。



樹勢調査の様子



調査結果

柑橘部会女性部対象の経営勉強会を実施

園芸課 果樹花き係

JAむなかた柑橘部会女性部は、令和6年7月に初めての取り組みとして経営勉強会を実施しました。女性部を対象とした講習会は、基礎技術の習得と女性生産者同士の交流を図るため、平成31年より摘果や剪定などの栽培技術面の研修を毎年開催していますが、今年度は新たに経営管理をテーマとした勉強会を行いました。

今回は、生産者5名が参加し、経営管理の必要性や記録の仕方、経営計画の作成方法を学びました。参加者からは、「記録をする大切さを学んだため、作業日誌をつけることから始めたい」といった声が聞かれました。今後は、それぞれの経営を把握することから始め、課題の整理や目標達成に向けた経営計画の作成支援を行う予定です。

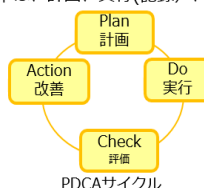
普及指導センターでは、今後も女性生産者の技術向上に加え、経営計画の作成や目標達成に向けたフォローアップを行い、経営改善を支援していきます。



経営勉強会

4 経営計画を作りませんか？

◆経営管理の基本は、計画、実行(記録)、評価、改善



計画作成し、記録 勉強会資料 しよう！

10

新たな切り枝品目「ポポラスベリー」の出荷が増加

園芸課 果樹花き係

JAむなかた管内では、ユーカリを主とした多様な切り枝が栽培されています。令和4年より新規切り枝品目としてユーカリの蕾付きの枝「ポポラスベリー」が出荷開始され、年々出荷数量が伸びています。令和6年は、4名の生産者が出荷し、主に関西方面へ出荷されました。

「ポポラスベリー」は夏季(7～9月)に収穫でき、切り花でもドライフラワーとしても使えるため需要があり、収益性の高い切り枝品目として注目されています。

ポポラスベリーの蕾を付けるには、高木に仕立てる必要があり、作業性等、栽培面に課題があるため、普及指導センターでは安定出荷に向けた技術支援を行っています。今後も市場調査による情報収集や栽培技術指導を行い、新規品目の栽培を支援します。



ユーカリ現地検討会の様子



ポポラスベリー



(左：ほ場、右：出荷箱)

表彰名：福岡県農林水産まつり農林水産賞 名誉賞 受賞

受賞者：麻生 正雄氏(福津市)

福岡県が主催する「令和6年度福岡県農林水産まつり」において、福津市の麻生正雄氏が「農林水産賞名誉賞」を受賞されました。

生産者の高齢化により地域の水田農業の維持が困難となってきたことから、令和2年に麻生氏は米麦大豆経営の法人(合)アソウファームを設立されました。法人化後は更に作付け依頼が増え、現在では米麦大豆で延べ99haに経営規模を拡大されています。

また、アソウファームは生産者の減少により難しくなった地域の環境整備に貢献している他、効率的な農作業を実現するため、農地集約の調整や更なる省力化、低コスト化に向けてドローンを始めとするスマート農業に積極的に取り組んでいます。

これらの活動は、地域農業を次世代につなぐ大きな力となっており、今後益々重要性が高まると考えられるとともに、他地域への波及効果が期待されます。



名誉賞受賞者



麻生 正雄氏

表彰名：福岡県花き品評会

「技術・ほ場の部（トルコギキョウ）」

福岡県知事賞 受賞

受賞者：中津留 大氏（福津市）

花あふれるふくおか推進協議会が主催する「令和6年度福岡県花き品評会技術・ほ場の部(トルコギキョウ)」において、JAむなかた花き部会長の中津留大氏が「福岡県知事賞」を受賞しました。

この品評会は、県推進品目のトルコギキョウを生産するほ場において、秀品率や作業環境等の6つの項目を中心に審査が行われるもので、生産現場での実力が評価される価値ある賞です。

中津留氏は毎年、土づくりや土壌分析に基づく施肥を行っており、高品質なトルコギキョウを安定的に生産されています。

管内の花き産地をけん引する生産者として、今後の活躍が期待されます。



中津留 大氏



受賞した品種「セシルブルーML」

3 参考資料

(1) 令和6年度主な展示ほの概要

対象作物	課題名	市町村	展示ほの目的・概要
大豆	肥料実用化展示ほ マイティーソイルレコの 現地適応性の検証	宗像市	大豆の収量向上に向けて緩効性肥料による開花期以降の窒素の供給、およびカリウムの供給を目的とした、発酵鶏ふんを主原料とする混合堆肥複合肥料の肥効試験を行った。 今回の試験では、試験区は慣行区と比較し、稔実莢数、整粒数が少なく、百粒重は重いものの、大粒比率が小さく、収量向上効果は判然としなかった。
ミニトマト	夏秋ミニトマトにおける土着 天敵タバコカスミカメを活用したタバココナジラミ防 除体系の検討	宗像市	ミニトマトほ場において化学農薬に抵抗性を持つタバココナジラミに対して、土着天敵タバコカスミカメを放飼することで、防除における効果向上及びコスト低減を図った。 定植当日から天敵を放飼することで、対象害虫の密度減少が確認された。また、防除コストも低減された。
カンキツ	サンテ被覆および粘着 テープ貼付による「早味かん」の日焼け軽減方法の 検証	宗像市	日焼け果が発生しやすい「早味かん」について、サンテ被覆および粘着テープ貼付による日焼け果軽減効果の検証を行った。 慣行区（ホワイトコート散布）と比較し、試験区（サンテ被覆・粘着テープ貼付）の日焼け果率は低かった。また、資材費および労賃を除いた粗収益は、慣行区より試験区が高くなった。
トルコギキョウ	土壌消毒剤「クロピクフ ロー」の効果実証	福津市	トルコギキョウの前年立枯れ症状の多かったほ場において、土壌消毒剤「クロピクフロー」の効果実証を行った。 慣行の土壌消毒剤「クロルピクリン錠剤」と比較して、同等の効果が得られた。また、防除コストも低減された。

展示ほ等設置実績

農薬展示ほ	8件	水稻奨励品種決定現地ほ	1件
肥料展示ほ	8件		

(2)令和6年度普及指導センター活動情報一覧

令和6年度に普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No.	タイトル	担当係	発行月/日
1	満開のレンゲほ場にてレンゲ米講習会を開催しました	水田農業係	4/15
2	女性農村アドバイザー新人研修会を開催しました	地域係	4/26
3	いちご育苗講習会が開催されました ～良質な苗づくりを目指して～	野菜係	6/7
4	JAむなかたかんきつ部会女性部 摘果講習会を開催しました	果樹花き係	6/27
5	むなかた地域新規就農研修閉講式・開講式の開催 ～研修修了生が新規イチゴ農家へ～	地域係	7/8
6	令和6年度営農基礎講座開講！ ～新規就農者の早期経営確立を目指して～	地域係	7/18
7	JAむなかた柑橘部会女性部が経営を学ぶ ～経営計画の作成に向けて～	果樹花き係	8/6
8	「生産効率向上を図る改善方法の実践」に関する研修会の開催	地域係	8/26
9	宗像地区直販施設連絡協議会研修会を開催	地域係	9/2
10	北筑前地区女性農村アドバイザー視察研修を開催しました	地域係	9/12
11	JAむなかた胡瓜部会 現地検討会を開催しました	野菜係	10/17
12	トルコギキョウ秋作現地検討会を開催	果樹花き係	10/17
13	北筑前アグリネットが「よかところ見て歩き」を開催 ～大規模稲作経営を視察研修～	地域係	10/21
14	JAむなかた花木現地検討会を開催しました	果樹花き係	10/23

HPアドレス：<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704601/>

15	JA粕屋いちご部会現地検討会が開催されました	野菜係	11/1
16	JAむなかたトマト部会現地検討会を開催しました ～冬季に向けた株づくりを目指して～	野菜係	11/8
17	JAむなかた苺部会栽培講習会を開催しました	野菜係	11/14
18	女性農業者対象のトラクター研修を開催しました	地域係	11/21
19	JA粕屋いちご部会 青年部現地検討会を開催しました	野菜係	11/28
20	新規就農者向けの営農基礎講座を開催しました	水田農業係	12/20
21	水稻の高温障害について勉強会を実施	水田農業係	1/7
22	JA粕屋かんきつ部会年間管理講習会を開催しました	果樹花き係	2/12
23	令和6年度農業経営研修会を開催	地域係	2/18
24	「高温障害」に負けない米づくりを目指して	水田農業係	2/25

(3) 令和6年の生育状況

(水稻・麦・大豆)

【水稻】

- ・早期は、5月の気温低下で分けつが少なく、やや軟弱徒長で経過した。
- ・出穂期は、早期、普通期ともに平年並であった。
- ・成熟期は、早期、普通期ともに平年並であった。
- ・病害虫は、台風10号の影響により、ヒノヒカリやツクシホマレのほ場で籾ずれなどの被害がみられ、内穎褐変病やもみ枯細菌病などの発生がみられた。スクミリンゴガイ、コブノメイガ、イネカメムシおよびミナミアオカメムシの発生が多くみられた。
- ・収量、品質は、出穂後の高温の影響による白未熟粒の発生や充実不足、カメムシ類の吸汁による不稔籾や斑点米の発生により、平年と比べ低下した。

【麦】

- ・播種は、11月中旬から始まり、12月の降雨で播種が遅れ、1月初旬に終了した。
- ・生育は、出芽後の高温多雨の影響により、全体的に分けつが少なく、特に排水不良のほ場は、管理作業が不十分となり、湿害も発生し不良となった。
- ・茎立ちおよび出穂は、生育期間を通じて高温傾向で推移したため、小麦・大麦とも平年に比べ早かった。
- ・成熟期は、小麦・大麦ともに平年よりやや早かった。
- ・病害は、降雨が多かったため網斑病や赤かび病の発生がみられた。
- ・収量および品質は、湿害による根傷み、下葉の黄化・下葉枯の発生により、昨年に比べ低下した。

【大豆】

- ・播種は、7月上旬から降雨の合間に始まり、20日過ぎに盛期を迎え、8月上旬に終了した。
- ・7月下旬から8月下旬にかけ高温・乾燥が続き、7月上旬播きは出芽も順調で生育量も多かったが、多くのほ場は遅播きとなり、出芽ムラが目立ち、生育量が少なかった。
- ・開花期は、平年並みであった。
- ・強風雨を伴う台風10号の影響により、やや倒伏がみられた。
- ・雑草は、アサガオ類・ヒユ科・タデ科雑草などが多くみられた。
- ・病害虫は、主にハスモンヨトウやミツモンキンウワバの発生が8月中旬頃からみられ、食害も8月下旬以降広がった。また、カメムシ類の発生が多く、防除が不十分なほ場では青立ちや被害粒の発生が増加した。
- ・収量および品質は、全体的な遅播きにより生育量が少なかったことや、青立ちの発生、カメムシ類などの被害粒発生及び、汚損粒の発生により、昨年に比べ低下した。

(野菜)

【イチゴ】

- ・3～4月の定期的な降雨でランナーの発生は良好で、梅雨までの晴れ間もあり、採苗作業は順調に進んだ。
- ・育苗初期は、梅雨入り後に断続的に降雨があったため、初期の生育が抑えられていたが、7月中旬から徐々に回復した。
- ・一番果房の花芽分化は早期作型では例年並み、普通ポットでは高温の影響で遅くなり、一部で定植が遅れた。
- ・高温の影響から早期作型の果実着色が早まり、小玉傾向となり、例年より早い出荷開始となった。また、定植後からの炭疽病による枯死が一部で発生し、年内収量は例年より下回った。

【トマト】

- ・8月から10月にかけて定植が行われ、定植の早期作型は高温により、株の萎れ、第1果房の小玉化が散見された。
- ・病害においては、青枯病、黄化葉巻病が発生した。
- ・市場出荷は11月下旬開始となり、年内は高単価で推移した。

【露地野菜】

- ・夏季の高温乾燥傾向で、7月の播種では発芽のバラツキが見られ、盆前後から9月中旬までの定植作型で枯死株が散見された。
- ・11月上旬の降雨により、一部ほ場で冠水が発生し、植え替えなどの対応が必要となった。
- ・11月中旬以降は低温傾向となり、生育が停滞した。
- ・出荷開始はほぼ平年並みであったが、高温が続いた盆前定植分については品質の低下が見られた。また、11月中旬からの低温傾向により、年内の出荷量は伸び悩んだ。
- ・病害虫について9月以降、チョウ目の発生が多く、また、主要薬剤の感受性低下なども重なり、被害は大きかった。11月下旬以降、黒すす病、菌核病、株腐病等が散見された。

（果樹）

【カンキツ】

- ・2月は気温が高く推移したものの、3月上旬頃は気温が低く推移したため、発芽・開花期は、平年より遅くなった。
- ・着花量は、前年の着果量が多かった影響で、極早生は並～やや少なく、早生以降は少なかった。
- ・カメムシは越冬量が多く、春に多発生した。
- ・ケシキスイ類等の訪花害虫が一部園地で、多発した。
- ・果実は、夏期の高温により日焼けが多発し、秋季の高温により着色が遅れた。

【スモモ】

- ・着果量は、開花のバラツキや満開期頃の曇雨天により大幅に減少した。
- ・春先の降雨によりふくろみ病が多発した。
- ・一部園地で、カメムシが多発した。

【キウイフルーツ】

- ・発芽・満開期は、生育期間を通して、平年に比べやや遅い傾向だった。
- ・「ヘイワード」は、着花量が少なく、開花がバラついた。
- ・果実は、着果量が少なかったため、肥大が良好だった。
- ・一部園地で、カメムシが多発した。

【イチジク】

- ・発芽期は、2月は気温が高く推移したものの、3月上旬は気温が低く推移したため、前年並～やや遅かった。
- ・生育は、全体的に着果良好であったが、夏季の気温が高かったため、小玉や着色不良、高温障害が見られた。

(花き)

【トルコギキョウ】

- ・秋だし作型は、9月から10月が高温に推移したため、9月は平年と比べ昨年並に生育が前進化、10月は昨年より2週間ほど前進した。
- ・病害虫は夏季の乾燥、11月の豪雨の影響の影響により、チョウ目害虫、コナジラミ類、斑点病、茎腐病、灰色かび病はやや多い発生となった。

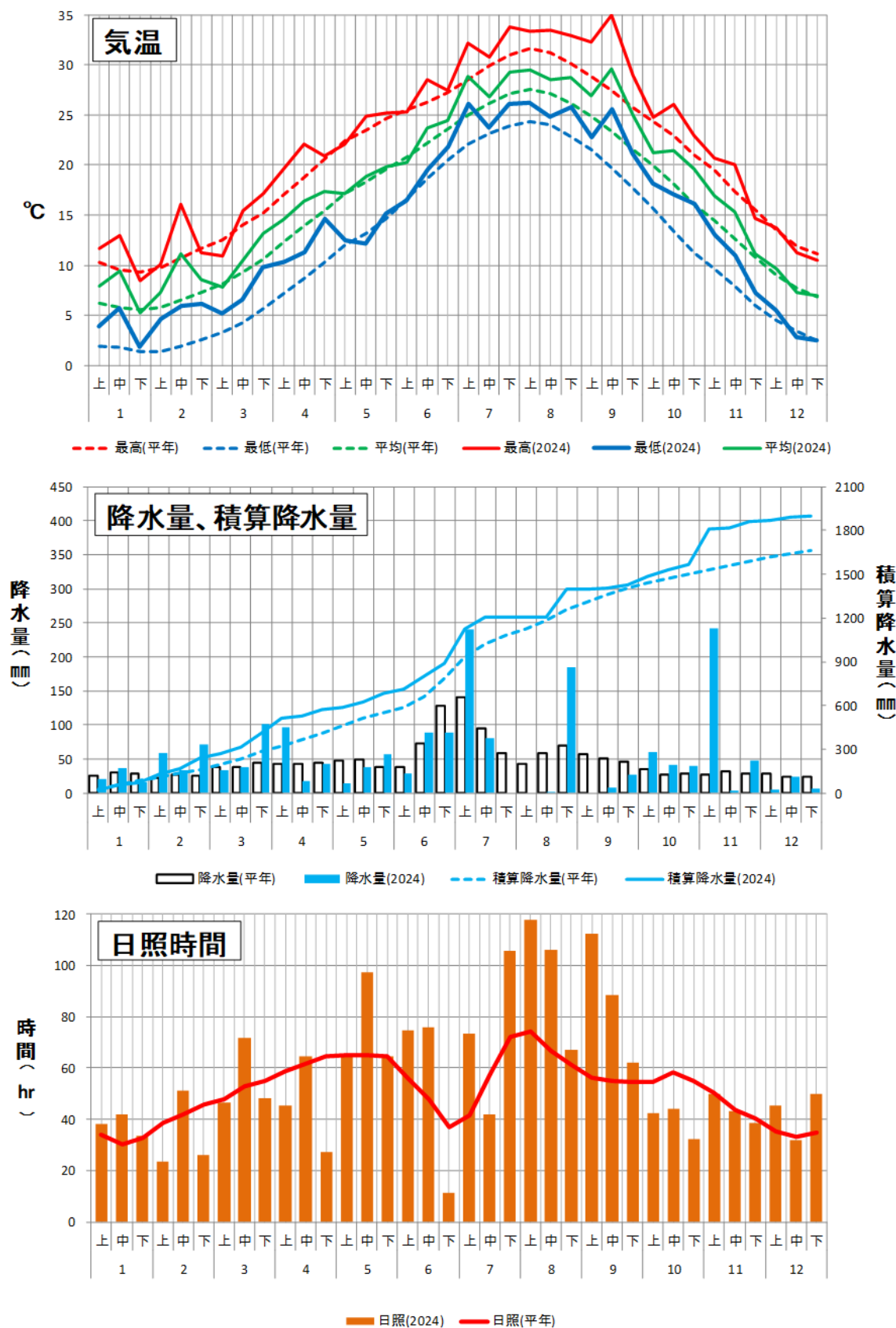
【バラ】

- ・出荷量は、夏季高温や病害の発生の影響により平年より減少した。
- ・病害虫は夏季の乾燥、11月の豪雨の影響の影響により、コナジラミ類、うどんこ病、べと病はやや多い発生となった。

【ユーカリ】

- ・7～9月の記録的な高温乾燥により、全体的に樹勢が低下し、枯れ株の発生が見られた。
8月下旬の台風と11月上旬の暴風雨により、株傷みが多く発生した。
- ・病害虫は、平年より病害発生は少なかったが、害虫は一部でミノガの被害が見られた。

(4) 令和6年の気象状況



グラフは宗像アメダス(宗像市田熊)のデータをもとに作成

(5) 普及センターの所内体制

活動体制			プロジェクト班		推進活動班				窓口				
			宗像地域	粕屋地域 (古賀市)	情報推進班	後継者育成推進班	経営改善支援推進班	生産環境推進班	農業DX 6次産業化	男女共同参画 普及情報	農業機械 土壌肥料	病害虫	環境保全
センター長			友田 正英					○					
地域振興課	地域振興課長		河野 悦子			総括者	総括者	総括者	○				
	地域係	係長 (地域)	瀬崎 容世		推進員		○		○		○		
		庶務	田中 祐子										
		農業経営	八波 博則		○				推進員				
			齊藤 紀子			○				○		○	
			門田 日陽里			○		推進員					
	水田農業係	係長	井上 敬		○			○	○				
		水田農業	上原 隆寛			推進員	○						
			則行 正大			○		○				○	
			小田 志穂										
園芸課	園芸課長		川原 憲朗		総括者			総括者	総括者	○			
	野菜係	係長	片山 貴雄		○			○					
		野菜	佐藤 辰哉			○		○					
			牧原 湧也		○					推進員			
			有馬 ひかる			○	○						○
		果樹花き係	係長 (花き)	菅根 里花		○			○				
	果樹花き		半田 雅博		○			○		○			
	果樹花き		北山 絵美子			○	推進員						
果樹	青木 日向子			○		○							



北筑前普及指導センターへのアクセス



高速道路でお越しの方

・九州自動車道「古賀IC」から約7.5km

公共交通機関でお越しの方

・JR鹿児島本線「福岡駅」下車徒歩25分

福岡県福岡農林事務所北筑前普及指導センター

所在地 〒811-3219

福岡県福津市西福岡4丁目2番1号

電話 0940-43-8833

FAX 0940-43-8830

HPアドレス <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704601/>

E-mail hokuchiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

表紙写真紹介

- 1段目左: 営農基礎講座(病害虫・農薬)
- 1段目右: 北筑前アグリネット(よかところみて歩き)
- 2段目左: レンゲ米講習会
- 2段目右: 営農基礎講座(農作業安全)
- 3段目左: JA粕屋いちご部会現地検討会
- 3段目右: JAむなかたトマト部会現地検討会
- 4段目左: スモモジョイント栽培 枝管理指導
- 4段目右: トルコギキョウ秋作現地検討会

福岡県行政資料	
分類記号 PA	所属コード 4703127
登録年度 06	登録番号 0001